

# 大東文化大学 東洋研究所所報

2009.6 No.51

## 目次

所長就任にあたって 山田準 …………… 1	福田俊昭教授に博士号授与 …………… 6
2009年度東洋研究所共同研究課題 …………… 2	東洋研究所専任研究員研究業績一覧 …………… 6
〔研究員便り〕	2008年度東洋研究所共同研究班活動報告 …………… 8
陰陽道シンポジウム・イン・コロンビア大学	人事・名簿 …………… 10
兼任研究員 山下克明 …… 4	2008年度東洋研究所会議報告 …………… 11
〔国際交流〕	2008年度発行『東洋研究』 …………… 11
東アジアの将来像：共同体か、共異体か	新刊案内 …………… 12
東京大学東洋文化研究所准教授	
ウェブ ジェイスン氏 ……5	

## 所長就任にあたって

山田 準

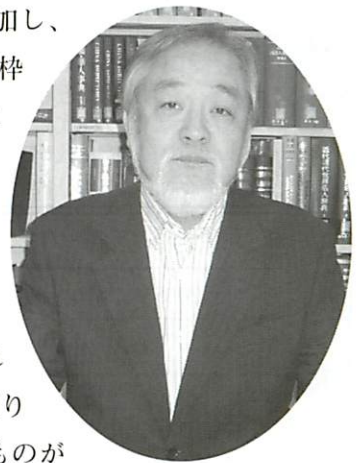
本年4月より東洋研究所所長兼事務長に就任致しました山田準と申します。私の名前は大東文化と縁のある名前で、亡父が大東文化学院時代に名誉教授で漢学者・陽明学者であった山田濟斎（本名準）先生から戴いた名前で、大東に二人の山田準が奉職したことになり、大変重みを感じております。

私が東洋研究所と関わるようになったのは、1978年教授1名・講師1名・助手3名の専任研究員を置くことになったときからで、助手の1人として着任致しました。当初は人文班・政経班・国際班の3班があり、サロンのような雰囲気のある研究所として、諸先生方が来所されていました。新学部が創設され大学の発展・拡大に伴い、ときには多くの教授陣が籍を置かれ、学問面のみならず人生論等様々なことを教わりました。手狭になった研究所は転々と移動を余儀なくされ、蔵書の移転作業に追われることが多く、やっとこの徳丸研究棟に落ち着いた感があります。研究班も大学が大

きくなるにつれて増加し、現在では9班が学部枠を超えて、学際的に大学外からも研究者が集まり多くの研究成果を生み出しております。

昨今、時代の流れもあって研究所を取り巻く環境には厳しいものがあります。

今後も各学部や大学院の授業に協力するとともに、伝統にとらわれ古きを温めることのみならず、新しい知識を集結し新しい東洋研究所を目指して正に「温故知新」の精神で、柔軟な対応と大学の研究所とは何かを追求しながら、微力ではありますが研究活動の発展と研究環境の向上に努力したいと思っております。皆様の積極的なご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。



## 2009 年度 東洋研究所共同研究課題

(専=専任研究員、担=兼担研究員、任=兼任研究員、特=特別兼任研究員)

1 班	<b>東洋における異文化の本質的相違性に関する研究</b>
	<p>期間 2007～2009 年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (14 名) 専松本照敬〔主任〕 福田俊昭・兵頭徹・山田準・岡崎邦彦・小林春樹 担近藤正臣・中村昭雄・新里孝一・片岡弘次・田辺清・井上貴子 任広井大三・多田博一</p> <p>概要 今日の複雑な社会情勢を眺める人は、多様な価値観の存在を相互に認め合うことの必要性を痛感するであろう。地球という有限な環境の中で、多くの生命が共存する社会の在り方が模索されねばならない。本共同研究は、こうした「共生社会」の創造を視野において、東洋における異文化および東西文化に見られる相違性を抽出することを目指している。異文化の根底にある相違性が認識されれば、相互理解への途も開けてくるであろう。21 世紀における新しい社会の創造を探求して先駆的な研究を進めていきたい。</p>
2 班	<b>歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会</b>
	<p>期間 2008～2010 年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (5 名) 担岡田宏二〔主任〕 村井信幸 任谷口房男・由川稔 特加治明</p> <p>概要 今日の中国は、漢民族と 55 の少数民族を含む 56 種の民族によって構成される多民族国家であり、中国において漢民族の対少数民族関係がもつ意義は大きく、漢民族と少数民族との関係は長い歴史を通じて形成されてきたものである。そこで本研究では過去において両者のあいだにはどのような関係があり、漢民族は少数民族に対してどのような政策をとってきたか、また少数民族側の政治や伝統的な文化・社会組織がどのようなものであったか、などといった点についての実証的な研究を行う。</p>
3 班	<b>中国 21 世紀の発展と課題</b>
	<p>期間 2009～2011 年度 (継続)</p> <p>メンバー (14 名) 専岡崎邦彦〔主任〕 担内田知行・柴田善雅・鹿錫俊・齋藤哲郎・内藤二郎・劉魁朝 任安藤正士・伊藤一彦・上野英詞・近藤邦康・中島宏・窪田道夫 特小島麗逸</p> <p>概要 21 世紀を迎えて、中国の急速な経済発展はアジアばかりか、世界のあらゆる方面に大きく影響を及ぼしている。とりわけ近年は、東アジア諸国の共同体構想という新たな展開をむかえ、中国の対外戦略、国内政治の大きな変化の時代にさしかかっている。本研究はこうした視点に立って今後中国の行方を様々な方面から検討し、中国の発展戦略と今後の問題点を見極め、明らかにすることである。さらに、大学各学部やアジア研究に関する研究会との合同研究会を通じて、中国に対する理解と研究方法の発展に貢献したい。</p>
4 班	<b>昭和社会経済史の総合的研究</b>
	<p>期間 2008～2010 年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (4 名) 専兵頭徹〔主任〕 担大杉由香・小湊浩二・武田知己</p> <p>概要 第 4 班では、『昭和社会経済史料集成』の刊行に際し、第 I 期の「海軍省資料」全 30 巻を完結し、ついで第 II 期「昭和研究会資料」(全 7 巻)の完結に目途をつける段階に到達した。そこで本研究班では研究課題を変更しながら上記刊行物の完成につとめ、併せて新規の研究分担者を迎えて昭和史の総合的な研究をすすめていくことにしたい。</p>
5 班	<b>日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心にして—</b>
	<p>期間 2008～2010 年度 (研究期間中)</p> <p>メンバー (9 名) 専福田俊昭〔主任〕 担日吉盛幸・浜口俊裕・中林史朗・藏中しのぶ 任成田守・芦川敏彦 特遠藤光正・進藤英幸</p> <p>概要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。</p>

6 班	大西洋世界とインド洋＝太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考
	期間 2008～2010年度（研究期間中）
	メンバー（5名） 専山田準〔主任〕 担岡倉登志・瓜生洋一・瀧口明子 任生田滋
概要 西欧植民地主義の成立、発展、機能、思想的背景については数多くの研究がなされてきた。これら西欧植民地主義の歴史研究は、ヨーロッパと新大陸つまり大西洋世界、ヨーロッパと旧大陸つまりインド洋＝太平洋世界を対象とし、それとは別に植民地宗主国の歴史研究が存在した。これら大西洋世界における西洋植民地主義の歴史研究からは太平洋世界における植民地主義が見えてこない。逆にインド洋＝太平洋世界における西欧植民地主義の歴史研究からは、大西洋世界の植民地主義は見えてこない。このように三大研究対象を比較統合した研究にはなかなか行き当たらない。そこでこの研究班では、大西洋世界、植民地宗主国、インド洋＝太平洋世界の三大地域を結ぶ紐帯としての植民地主義の機能を明らかにすることを目的として、いくつかの個別的研究を分担して実施しようとするものである。	
7 班	中国、日本の天文・暦学に関する総合的研究
	期間 2007～2009年度（研究期間中）
	メンバー（8名） 専小林春樹〔主任〕 担渡邊義浩 任小坂真二・小林龍彦・近藤正則・中村士・山下克明 特濱久雄
概要 天文・五行・気象占に関する最初の、そして最大の漢文史料の集大成として唐代に編纂された『開元占経』を中心に、採録された史料をオントロジの概念を援用して分類し、あらたな史料集成を作成する。なお最終年度にはそれを公刊する。	
8 班	和漢比較文学の研究—『古金石逸文』を中心にして—
	期間 2009～2011年度（継続）
	メンバー（2名） 専福田俊昭〔主任〕 担藏中しのぶ
概要 ここでいう『古金石逸文』とは中国唐代の墓誌銘をいう。その研究は、まだ緒に着いたばかりで、訓読は勿論のこと、注釈書さえない。この研究班が先鞭となるべく、本文の翻刻を始め、校異、訓読、語釈、現代語釈を行い、考説・参考などを加えて刊行することを目標とする。これが日本文学の研究への一助となれば幸甚である。	
9 班	茶の湯と座の文芸
	期間 2008～2010年度（研究期間中）
	メンバー（6名） 担藏中しのぶ〔主任〕 専福田俊昭 任渡辺信和・安保博史・相田満・矢ヶ崎善太郎
概要 平成16年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質の研究—『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間の成立とされる茶道百科事典『茶譜』全十八巻の注釈研究をおこなう。研究分担者は、科研費研究から継続して参加する藏中しのぶ、福田俊昭、相田満（情報学・日中比較文学）に加えて、渡辺信和（日本文学・中世仏教文学）、安保博史（日本文学・近世文学）矢ヶ崎善太郎（建築史・茶室建築）を新たに迎え、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。	



近年でこそメディアなどで陰陽師安倍晴明ブームがあり、日本でも多少は陰陽道なる存在は注目され始めたとは言え、ニューヨークに日本や欧米の研究者が集まり、多方面から陰陽道について議論することになるとは、それまで全く予想できないことであった。

今年の5月1日～3日までの三日間、ニューヨークのコロンビア大学で、同大学日本宗教研究センター（CCJR、ベルナルド・フォール所長）主催による「陰陽道シンポジウム」が行われた。CCJRからEメールで参加の案内があったのは1月中旬頃、中世神道、修験道に続いて陰陽道は3回目のシンポジウムのテーマだといい、西欧では実質的にいまだ知られていない陰陽道の伝統を考察することに目的があるという。日本からの参加者は知己が多いながら不安もあったが、前回に続き参加する彌永信美氏がネット上にメーリングリストを開設され、その場を通して内外の報告者がそれぞれの発表テーマや内容を掲示するなど事前にシンポジウムの情報を共有できたことは、はじめて国際的な学会に参加する私にとり心強いことであり、有り難かった。

かくして4月29日ニューヨークに降り立つが、ここで翌々日から開催された本会の概要と、その成果の若干、雑感を述べさせていただく。

第1日午前には、ハーマン・オームズ「マーケットの制限された陰陽道—奈良」、小池淳一「陰陽道と民俗文化—研究の進展のための三つの視点」、鈴木一馨「『おんようどう』と『おんみようどう』—陰陽道の系譜と体系に関する考察」、があり、午後には、マイケル・コモ「古代日本のテクノロジーと陰陽道の広がり」、山下克明「陰陽道の特質と関係典籍」の発表があった。今回のシンポジウムのメインの一つであった高知県山間の民俗宗教「いざなぎ流」のビデオが上映されて、参加者の興味をひいた。

第2日午前には、デビット・ピアロック「音の地理学—陰陽道・音楽・平家の語り」、スティーベ

ン・トレンソン「真言祈雨修法と龍の儀礼—陰陽道と密教の相互関連の事例」、西岡芳文「式盤を祭る密教修法（盤法）の諸相」があり、午後にはベルナルド・フォール「大將軍一曆から信仰へ」、マティアス・ハイエク「近世日本の古いの実践と知識—陰陽道の内在的な再定義」、林淳「近世の陰陽師とキリシタン」の発表がなされた。

第3日には、斎藤英喜「牛頭天王信仰といざなぎ流の儀礼世界」、梅野光興「オンザキと天の神」の発表がなされた。長年にわたりいざなぎ流を調査してきたフランスの学者、シモーヌ・モークレールは病気のために欠席となり、ペーパーが読まれた。

このように日本・西洋から各7人が立ち、それぞれのテーマに沿って陰陽道の本質や密教儀礼への影響、近世社会への伝播とツール、民俗信仰と如何なる部分で関わるのかなど、古代から近世史・宗教文化や民俗学の立場から発表があった。

その内容は、私も含めての日本の研究者は、未定立の陰陽道概念の課題を前提として各時代の陰陽道の特質や把握の視角を提示しようとする意図が見受けられたが、西欧の研究は日本宗教に特徴的な神仏の習合と変容、多義的な世界観を検討する上でのシンボリックな存在として陰陽道、神や儀式に着目し、その側面から密教儀礼との相関性を検討したトレンソン、西岡両氏の報告は注目されたように思われる。欧米の研究者の視点はわれわれにとり斬新で、陰陽師の活動に陰陽道の本質を求めてきた私には視野の転換、関連の文化事象からも陰陽道を捉えなおし日本文化のあり方を考える、良い意味での融通性を迫る、そのような契機を与えられたように感じた。

この会ではシンポジウムということで討論が重視され、割り当ては1テーマ1時間で、発表者には15分から20分の時間が与えられ、それを受けてディスカサントが解説と質問をして、あとは参加者をまじえて自由に討論するというもので、おおかた発表者も質問する側も、熱心さのあまり時間超過になりがちであった。日本の学会では発表者の口頭報告・レジュメが中心となるが、シンポジウムのもう一人の主役は、しばしば報告者以上に熱のこもった解説の役割を果たしたディスカサントの方々（＝彌永信美、ルチア・ドルチェ、マーク・テーウェン、ウィル・ハンセン、マルコ・ゴットルト、ドミニク・ステイーブ、ジョージ・クロノスの各氏）である。私のディスカサントはロンドン大学アジア・アフリカ学院のルチア・ドルチェ先生で、日本語に堪能な中世密教の研究者で陰陽道と関係が深い天文・星辰信

仰に関心があり、わたし以上の時間を割いて熱心にコメントをしていただいた。

また会場も、日本のように多数の聴衆の来場にそなえた講堂や大教室ではなく、大学構内の年代を経た瀟洒な小ホールであったことも意外だった。それは参加者が40名程度、ほとんど日本学の研究者を中心に招聘していたからで、そのなかで報告者を挟んで半円状に参加者がソファや椅子に座り、くつろいだ雰囲気の中で議論を深めるように配慮されていた。はた目にも、参加者の渡航・滞在費、至れり尽くせりの運営費など相当な経費が掛かっていると思われるが、私には各地の専門家を招き、集中的に議論して課題を析出するこの方法も、学問に直接還元してそのレベルを引き上げる最善の策と感ぜられた。それともうひとつ印象的だったのは若い院生の存在である。日本から一緒に来たジョルジョ君は、ロンドン大学から京都・仏教大学の斎藤英喜氏のもとに留学してきたイタ



リア人であり、コロンビア大学だけでなくカリフォルニアからも陰陽道に関心を持ち、私著を通して勉強しているという熱心な若い研究者と交流できたことも新鮮な驚きであった。

日本でも集まることは稀な我々であるが、それぞれがこの経験を整理して、さらに陰陽道とは何かを問い続け、発信する事を期して帰国した。

#### 〔国際交流〕 東アジアの将来像：共同体か、共異体か

東京大学東洋文化研究所准教授 ウェップ ジェイスン氏

2009.2.21 (土) 15:00 ~ 於：大東文化会館 k-0401 研修室

本発表では人文科学研究を行っている東アジアや欧米の研究者が、国際会議などの場で行われる学術交流において何を、その経験をどのように生かし、どのように社会貢献に結びつけることが可能かについて検討した。

国家概念を乗り越えようとする比較文学や世界史学、東アジア学などが、従来は国家概念に支配されてきた研究の対象やテーマを広げることになるのは確かなことであろう。ところが、研究傾向としてのリージョナリズムと、一般市民が所属感情をいだくナショナルリズムを超えた文化・歴史・価値観に基づいた共同体を構築する作業は、重なる部分があるにしても同じではない。果たして、その二つの作業はどのように繋がり、それによってどのような東アジアの将来像が理想として促進されているのであろうか。そして、人文科学研究における「地域性」を強調する国際共同研究や国際学会などの活動は、国際政治やあるいは国内の一般市民の認識とどのような関係にあるのであろうか。

ナショナルリズム、リージョナリズム、共同体、その他関連する用語はどれも非常に複雑な空間意識や民族意識、歴史意識を内包する単語である。少なくとも、英語においてそれらを使って対話をする際には、用語の厳密な意味と微妙なニュアン



スが人によって違うために誤解が生まれやすい。しかし、そうした研究者それぞれの個人的かつ細かな運用方法の違いよりも、地域によって大きく異なる意味内容を指していることの方が重大な問題である。つまり、リージョナリズムというその用語自体の定義は、リージョンによって異なるのである。たとえばASEANの国々が目標とするリージョナリズムと、ヨーロッパの国々が目標とするリージョナリズムの内容はけっして同じではない。それを混同して使用すれば、たいへんな誤解を招く。

研究者の責務は、東アジアでどのようなリージョナリズムが文学や政治、経済や外交などの様々な分野で目標とされているのかを問い続け、他のリージョンとの比較を通じてそれぞれの相違点を把握するようつとめることであると考えられる。

## 福田俊昭教授に博士号授与

2009年3月、本研究所専任研究員であり前所長の福田俊昭教授に大東文化大学論文博士（中国学）の博士号が授与された。

学位論文の題目は『李嶠と雑詠詩の研究』で、400字詰原稿用紙1778枚におよんでいる。

今後も後進の指導にあたられ、学会での活躍が期待される。

論文の構成は右のとおりである。

### 『李嶠と雑詠詩の研究』

- 第1部 李嶠篇
  - 第1章 李嶠
  - 第2章 文壇における李嶠
- 第2部 書誌篇
  - 第1章 無注本
  - 第2章 有注本『雑詠詩』の諸本
- 第3部 雑詠詩篇
  - 第1章 詠物詩について
  - 第2章 『李嶠雑詠詩』及び詩注の受容史

## 東洋研究所専任研究員 研究業績一覧 2006～2008年度

氏名	著書・学术论文等の名称	単／共	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
山田準 (教授)				
福田俊昭 (教授)	<p>〔著書〕</p> 藝文類聚（巻80）訓讀付索引 藝文類聚（巻81）訓讀付索引 藝文類聚（巻82）訓讀付索引 『茶譜』巻1 注釈	共 共 共 共	2007.3.25 2008.3.25 2009.3.25 2009.3.25	大東文化大学東洋研究所 同 上 同 上 同 上
	<p>〔論文〕</p> 長屋王の私邸における詩宴詩（下） 五山文学にみえる茶—鎌倉時代— 『朝野僉載』に見える医薬説話 『朝野僉載』に見える識應説話（前編） 李嶠と雑詠詩の研究	単 単 単 単 単	2006.7.25 2007.2.5 2007.7.25 2008.7.25 2009.3.18	「東洋研究」第160号 「茶の湯と座の文芸の本質の研究」 「東洋研究」第164号 「東洋研究」第168号 学位論文
	<p>〔学会発表〕</p> イメージで見る書道・茶道  懐風藻に見える日本の固有名詞と説話		2008.9.24  2008.9.25	大東文化大学・イタリア国立サレント大学共催国際ワークショップ 大東文化大学・イタリア国立サレント大学共催国際講演会
松本照敬 (教授)	<p>〔論文〕</p> ラーマヌジャ思想の研究（3） 『梵語千字文』の原語比定 ラーマヌジャ思想の研究（4） 『梵語雑名』の原語比定 ラーマヌジャ思想の研究（5） 家と宗教—日本仏教の檀家制度— 『唐梵文字』の原語比定	単 単 単 単 単 単 単	2006.7.25 2007.2.28 2007.7.25 2008.2.28 2008.7.25 2008.8.29 2009.2.28	「東洋研究」第160号 「成田山仏教研究所紀要」第30号 「東洋研究」第164号 「成田山仏教研究所紀要」第31号 「東洋研究」第168号 三大学国際シンポジウム論文集 「成田山仏教研究所紀要」第32号
	<p>〔著書〕</p> （訓下・加注） 浄厳・不動忿怒瑜伽要鈔—訓下・加注—	単	2008.4.28	成田山仏教研究所

氏名	著書・学術論文等の名称	単／共	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
兵頭徹 (教授)	〔論文〕 海軍省調査課と囑託の役割 (二) —前期高木課長時代と天川勇—	単	2006.11.25	「東洋研究」第161号
	海軍省調査課と囑託の役割 (三) —高木惣吉と大学校研究部—	単	2007.11.25	「東洋研究」第165号
	海軍省調査課と囑託の役割 (四) —ブレーン・トラストの編成—	単	2008.11.25	「東洋研究」第169号
	〔その他〕 (資料集編集) 『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料 (3)』 第33巻	共	2006.8.31	大東文化大学東洋研究所
	『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料 (4)』 第34巻	共	2007.8.31	同上
	『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料 (5)』 第35巻	共	2008.8.31	同上
岡崎邦彦 (准教授)	〔論文〕 西安事件後の国共交渉 (上) —西安事件70周年— 西安事件後の国共交渉 (中) —第2次国共合作交渉の開始— 西安事件後の国共交渉 (下) —杭州会談と廬山会談—	単 単 単	2006.12.25 2007.12.25 2008.7.25	「東洋研究」第162号 「東洋研究」第166号 「東洋研究」第168号
	〔学会発表〕 1937年朱毛出洋問題		2008.5.24	アジア政経学会東日本大会 (東京外国語大学)
小林春樹 (准教授)	〔著書〕 若杉家文書『中国天文・五行占資料の研究』	共	2007.3.31	大東文化大学東洋研究所
	〔論文〕 元和改暦の性格・特色、および歴史的意義の再考—後漢の「合理主義的思想」の再考のために— 『漢書』『五行志』の述作目的について	単 単	2007.1.25 2007.3.28	「東洋研究」第163号 『福井重雅先生古稀・退職記念論集；古代東アジアの社会と文化』(汲古書院)
	『漢書』の谷永像について	単	2008.1.25	「東洋研究」第167号
	「国教化実施以後儒教的神秘主義特徴と合理主義特徴—従歴史学角度作新的探討議— 書評：「稲葉一郎著『中国史学史の研究』」	単 単	2008.3.5 2008.7.20	「山東大学報 (哲学社会科学版)」 2008年2期 「史学雑誌」第117編 第7号
	『漢書』『外戚伝』の構成について	単	2008.7.25	「東洋研究」第168号
	『三国志』の王朝観 —『漢書』との比較を中心として—	単	2008.9.14	『狩野直禎先生傘寿記念・三国志論集』(汲古書院)
	〔学会発表〕 「国教化」実施以後の儒教における神秘主義的性格と合理主義的性格—歴史学にもとづく再検討—		2007.9.15～18	「面向世界的東方思想—中日韓 (山東大学・大東文化大学・成均館大学) 三国学術研討会 [於中国・山東大学]

■ 1班 = 東洋における異文化の本質的相違性に関する研究

【研究会】 場所：東洋研究所共同研究室

①日時：2008年7月10日(木) 13:00 ~ 15:00

参加人数：6名

発表者：松本照敬

テーマ：檀家制度の歴史と現状

内容：9月16、17の両日に開催される日中韓3国シンポジウムに先立ち、発表予定の論題について構想した論文の大筋について報告し、研究員の所感を求めた。

②日時：2008年12月4日(木) 13:00 ~ 15:00

参加人数：6名

発表者：岡崎邦彦

テーマ：西安事件について

内容：1936年に発生した「西安事件」について、経緯、背景思想そしてその後の日中関係への影響に関し、資料に基づいて詳細に分析し、報告した。

■ 2班 = 歴史的にみた中国の対少数民族政策と少数民族の伝統的社会

【研究会】

①日時：2008年12月22日(月) 15:30 ~ 17:00

場所：東洋研究所共同研究室

参加者：岡田宏二・村井信幸・谷口房男

発表者：岡田宏二・村井信幸・谷口房男

テーマ：岡田宏二「明代華南の土司」

村井信幸「清代雲南地域改土帰流」

谷口房男「広西チワン族の漢化」

②日時：2009年2月24日(火) 14:30 ~ 17:00

場所：大東文化会館4階401研修室

参加者：岡田宏二・村井信幸・谷口房男・加治明

由川稔

発表者：谷口房男・由川稔

テーマ：谷口房男「チワン族の漢化について—師公教の印章を手懸かりに—」

由川稔「中央アジアの環境問題」

■ 3班 = 中国21世紀の発展と課題

【研究会】 場所：大東文化会館研修室

①日時：2008年5月31日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：伊藤一彦

テーマ：「満鉄調査部の調査研究」

②日時：2008年6月21日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：窪田道夫

テーマ：「中国医療問題について」

③日時：2008年9月27日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：安藤正士

テーマ：「西安事件と延安根拠地の形成」

④日時：2008年11月1日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：岡崎邦彦

テーマ：「1937年2・2事件の真相と中共の対応—西安事件後の国共交渉」

⑤日時：2008年11月29日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：上野英詞

テーマ：「馬政権の大陸政策と対日米政策について—最近の訪台報告」

⑥日時：2009年2月21日(土) 15:00 ~ 18:00

発表者：劉魁朝

テーマ：「1950年代前半期における、農業合作社運動をめぐっての中国指導部内の対立と論争について」

※研究会は、第2班研究員および小島麗逸先生主催の「中国経済研究」(毎月1回開催)参加者と合同、協力して開いており、テーマによっては学内外の教員、研究員が参加している。

■ 4班 = 昭和社会経済史料集成

【刊行物】

『昭和社会経済史料集成—昭和研究会資料(5)』第35巻  
2008年8月31日刊行

■ 5班 = 日中文学の比較文学的研究—『藝文類聚』を中心にして—

【研究会】 場所：東洋研究所共同研究室

日時	人数	担当者	テーマ
①4月19日(土)	6名	福田俊昭	巻83訓読
②5月24日(土)	6名	中林史朗	巻83訓読
③6月21日(土)	5名	芦川敏彦	巻83訓読
④7月12日(土)	5名	芦川敏彦	巻83訓読
⑤8月30日(土)	6名	河井義樹	巻83訓読
⑥9月15日(月)	5名	河井義樹	巻83訓読
⑦10月4日(土)	6名	関清隆	巻83訓読
⑧11月22日(土)	6名	関清隆	巻83訓読
⑨12月6日(土)	6名	福田俊昭	巻83訓読
⑩1月24日(土)	6名	福田俊昭	巻83訓読
⑪2月28日(土)	6名	芦川敏彦	巻84訓読
⑫3月14日(土)	6名	芦川敏彦	巻84訓読

【刊行物】

『藝文類聚』(巻82) 訓読付索引

2009年3月25日刊行

■ 6班 = 大西洋世界とインド洋=太平洋世界を結ぶもの：西欧植民地主義再考

【研究会】 場所：東洋研究所共同研究室

①日時：2008年9月11日(木) 11:00~13:00

参加者：生田滋・岡倉登志・滝口明子・山田準

発表者：岡倉登志

テーマ：インド洋横断文化交流—マダガスカルとマレー・インドネシア

内容：1.フランスでの研究テーマ 2.マダガスカルと日本 3.マダガスカルのアジア的特色 4.マダガスカルの西歐化



## 【調査】

日程：2009年2月23日（月）～26日（木）

場所：島原

出張者：生田滋

目的：ポルトガル宣教師およびキリシタン関連資料調査

## ■ 7班 = 中国、日本の天文・暦学に関する総合的研究

【研究会】 場所：東洋研究所共同研究室

①日時：2008年12月13日（土）

参加者：小林春樹・近藤正則・濱久雄・山下克明

テーマ：『天文要録』の史的価値について・同書の  
訳注作業の具体的計画

内容：「中国の天文・五行占関係資料の蒐集」という  
研究テーマを、『天文要録』の研究（訳注作業  
を中心として）」に変更するにあたっての第一  
回の研究会であった。

②日時：2009年1月10日（土）

参加者：小林春樹・近藤正則・山下克明

オブザーバーとして、大兼健寛・田中良明両  
氏がはじめて参加。

テーマ：『天文要録』巻一の訓読文作成・語釈と参考  
資料の提示・現代語訳の作成

③日時：2009年2月14日（土）

参加者：小林春樹・近藤正則・山下克明

テーマ：『天文要録』巻一の訓読文作成・語釈と参考  
資料の提示・現代語訳の作成

内容：『天文要録』が非常に難解な史料であること、  
その一方で同書が天下の孤本であるとともにき  
わめて貴重な史料であることが判明した。

④日時：2009年3月14日（土）

参加者：小林春樹・近藤正則・山下克明・大兼健寛・  
田中良明

テーマ：『天文要録』巻一の訓読文作成・語釈と参考  
資料の提示・現代語訳の作成

## ■ 8班 = 和漢比較文学の研究－「古金石逸文」を中心に して－

【研究会】

①日時：2008年5月22日（木）

場所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

テーマ：蔵中進先生逝去後の研究会について

②日時：2008年9月12日（金）

③日時：2008年12月7日（日）

④日時：2009年2月22日（日）

②～④

場所：東洋研究所福田研究室

テーマ：王勃詩

## ■ 9班 = 茶の湯と座の文芸

【研究会】

①日時：2008年4月27日（日）

場所：池坊短期大学

参加者：福田俊昭・渡辺信和・安保博史・相田満・

矢ヶ崎善太郎・蔵重伸・松本公一・金井悦子

テーマ：今年度の研究計画確認と『茶譜』巻一注釈原  
稿のチェック

②日時：2008年7月19日（土）

場所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・渡辺信和・安保博史  
・相田満・矢ヶ崎善太郎・金井悦子

テーマ：『茶譜』巻一注釈原稿のチェック

③日時：2008年9月12日（金）

場所：池坊短期大学

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・渡辺信和・安保博史  
・相田満・矢ヶ崎善太郎・蔵重伸・松本公一

テーマ：『茶譜』巻一注釈原稿のチェック

④日時：2008年9月13日（土）

場所：ユニバープラザ神戸

参加者：蔵中しのぶ・渡辺信和・安保博史・相田満・  
矢ヶ崎善太郎

テーマ：『茶譜』巻一注釈原稿のチェック

⑤日時：2008年11月30日（日）

場所：池坊短期大学

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・渡辺信和・安保博史  
・相田満・矢ヶ崎善太郎・蔵重伸・松本公一  
・金井悦子

テーマ：『茶譜』巻一注釈原稿の最終チェック

⑥日時：2009年2月25日（水）

場所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・渡辺信和・安保博史  
・相田満・金井悦子

テーマ：『茶譜』巻一注釈の初校チェック

⑦日時：2009年3月4日（水）～5日（木）

場所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・安保博史・金井悦子  
テーマ：『茶譜』巻一注釈の再校チェック

⑧日時：2009年3月17日（火）～20日（金）

場所：大東文化大学蔵中しのぶ研究室

参加者：福田俊昭・蔵中しのぶ・安保博史・金井悦子  
テーマ：『茶譜』巻一注釈の三校チェック

【刊行物】

『茶譜』巻一注釈

2009年3月25日刊行

■人事

東洋研究所所長

山田 準(期間：2009年4月1日～2011年3月31日)

兼担研究員に委嘱

【新任】井上 貴子・小湊 浩二・武田 知己

(期間：2009年4月1日～2011年3月31日)

兼任研究員に委嘱

【新任】成田 守・窪田 道夫

(期間：2009年4月1日～2011年3月31日)

特別兼任研究員に委嘱

【新任】遠藤 光正・加治 明・小島 麗逸

(期間：2009年4月1日～2010年3月31日)

東洋研究所事務室

山田 準 2009年4月1日付 事務長兼務

■名簿

東洋研究所管理委員会委員 (9名)

山田 準 (所長・専任研究員)

福田 俊昭 (専任研究員)

松本 照敬 (専任研究員)

兵頭 徹 (専任研究員)

近藤 正臣 (兼担研究員)

岡田 宏二 (兼担研究員)

片岡 弘次 (兼担研究員)

藏中しのぶ (兼担研究員)

渡邊 義浩 (兼担研究員)

所長・専任研究員 (6名)

所長

山田 準 教授 (東西交渉史・貿易史)

研究員

福田 俊昭 教授 (日中比較文学・中国文学史)

松本 照敬 教授 (インド思想史)

兵頭 徹 教授 (日本経済史)

岡崎 邦彦 准教授 (中国政治経済)

小林 春樹 准教授 (東洋暦学)

事務室 (3名)

事務長(兼務) 山田 準

主査 佐藤 伸也

臨時職員 大山 郁子

兼担研究員 (25名)

日吉 盛幸 (文・日本文学科 教授)

浜口 俊裕 (文・日本文学科 准教授)

中林 史朗 (文・中国学科 教授)

渡邊 義浩 (文・中国学科 教授)

村井 信幸 (文・中国学科 准教授)

岡倉 登志 (文・英米文学科 教授)

近藤 正臣 (経・社会経済学科 教授)

内藤 二郎 (経・社会経済学科 准教授)

劉 甦朝 (営・企業システム学科 教授)

藏中しのぶ (外・日本語学科 教授)

瓜生 洋一 (法・政治学科 教授)

齋藤 哲郎 (法・政治学科 教授)

中村 昭雄 (法・政治学科 教授)

武田 知己 (法・政治学科 准教授)

内田 知行 (国・国際関係学科 教授)

柴田 善雅 (国・国際関係学科 教授)

瀧口 明子 (国・国際関係学科 准教授)

新里 孝一 (国・国際関係学科 准教授)

井上 貴子 (国・国際文化学科 教授)

岡田 宏二 (国・国際文化学科 教授)

片岡 弘次 (国・国際文化学科 教授)

田辺 清 (国・国際文化学科 教授)

鹿 錫俊 (国・国際文化学科 教授)

大杉 由香 (環・環境創造学科 准教授)

小湊 浩二 (環・環境創造学科 講師)

兼任研究員 (22名)

相田 満 (国文学研究資料館助教)

芦川 敏彦 (浜松学芸高等学校講師)

安保 博史 (群馬県立女子大学教授)

安藤 正士 (筑波大学名誉教授)

生田 滋 (大東文化大学名誉教授)

伊藤 一彦 (宇都宮大学教授)

上野 英詞 (海洋政策研究財団調査役)

窪田 道夫 (筑波大学知的財産統括本部専門員)

小坂 眞二

小林 龍彦 (前橋工科大学教授)

近藤 邦康 (大東文化大学元教授)

近藤 正則 (岐阜女子大学教授)

多田 博一 (大東文化大学名誉教授)

谷口 房男 (東洋大学教授)

中島 宏 (中国研究所理事)

中村 士 (帝京平成大学教授)

成田 守 (大東文化大学名誉教授)

広井 大三 (大東文化大学名誉教授)

矢ヶ崎善太郎 (京都工芸繊維大学大学院准教授)

山下 克明

由川 稔 (東京工学院総合研究所教育部マネージャー)

渡辺 信和 (同朋大学仏教文化研究所室長)

特別兼任研究員 (5名)

遠藤 光正 (無窮会理事、東洋研究所元所長)

加治 明 (大東文化大学名誉教授)

小島 麗逸 (大東文化大学名誉教授)

進藤 英幸 (了徳寺大学教授)

濱 久雄 (無窮会専門図書館長)

## ■管理委員会

①日時：2008年6月28日（木）11:00～

場所：東洋研究所共同研究室

(議案)

- 1.平成21年度事業計画(案)について
- 2.平成20年度東洋研究所予算について
- 3.平成20年度公開講座の実施について
- 4.『東洋研究』の発行について
- 5.研究所内規の制定および改訂について
- 6.委託販売契約について

②日時：2008年12月4日（木）11:00～

場所：東洋研究所共同研究室

(議案)

- 1.平成21年度東洋研究所の人事について
- 2.兼担依頼について
- 3.兼職について
- 4.海外出張について
- 5.海外渡航について
- 6.「東洋研究」論文審査委員会委員の委嘱について
- 7.刊行物の委託販売請負契約の締結について
- 8.平成21年度予算積算について
- 9.平成21年度東洋研究所刊行物の企画について
- 10.国際交流(講演会)の実施予定について
- 11.東洋研究所刊行物概要について

③日時：2009年2月21日（木）13:30～

場所：大東文化会館K-0401

(議案)

- 1.平成21年度東洋研究所人事(特別兼任研究員)について
- 2.「東洋研究」編集委員長について
- 3.平成21年度東洋研究所予算積算について
- 4.大学院との提携について
- 5.平成20年度国際交流(講演会)の実施について
- 6.刊行物編集委員会について
- 7.東洋研究所新所長について
- 8.平成21年度管理委員会開催日程について

## ■所内会議

- ①4月17日（木）10:00～
- ②5月15日（木）10:00～
- ③6月12日（木）10:00～
- ④7月10日（木）10:00～
- ⑤10月16日（木）10:00～
- ⑥11月6日（木）10:00～
- ⑦11月13日（木）10:00～
- ⑧12月4日（木）10:00～
- ⑨1月15日（木）10:00～
- ⑩2月12日（木）10:00～

## ■共同研究部会主任会議

- ①4月17日（木）11:00～
- ②5月22日（木）11:00～

□東洋研究 第168号(2008年7月25日発行)

遠藤光正…成島柳北の「航西日乗」と森鷗外の「航西日記」—その詩文の類似性について—

福田俊昭…『朝野僉載』に見える識應説話(前編)

小林春樹…『漢書』「外戚伝」の構成について

松本照敬…ラーマヌジャ思想の研究(5)

岡崎邦彦…西安事件後の国共交渉(下)—杭州会談と廬山会談—

□東洋研究 第169号(2008年11月25日発行)

藏中進…「日本国真人贈新羅使薛判官詩序」考

近藤正則…持敬と存養—「言志四録」における程朱学基調の一斑—

渡辺信和…聖徳太子周辺の人物キャラクター—外典の師学智について—

兵頭徹…海軍省調査課と嘱託の役割(四)

—ブレン・トラストの編成—

大杉由香…秋田感恩講に関する一考察

—過去の福祉NPOから何を見るか—

□東洋研究 第170号(2008年12月25日発行)

岡田宏二…明代華南地域における土司の設置について

田辺清…ルネサンス絵画と中国陶磁器

柴田善雅…日中戦争期外国為替割当政策の一考察

劉甦朝…1950年代半ばにおける中国農業協同化運動の展開

—互助組から協同組合への移行中の分岐と論争—

新里孝一…ケアにおける「動機」の問題

□東洋研究 第171号(2009年1月25日発行)

藏中しのぶ…『延暦僧録』卷五居士伝攷

山下克明…平安時代中期の陰陽寮官人

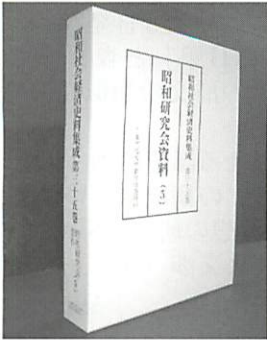
小坂眞二…十一世紀代の怪異六壬式占文について

相田満…地震と六国史—キャラクター生成装置としての六国史—

中村士…佐藤一斎の時計研究と幕府天文方との交流

「大東文化大学東洋研究所所報」の体裁変更について  
 今号より東洋研究所所報の体裁をB5判からA4判に変更いたしました。ご高承のとおり、近年印刷物の定型様式としてA4判が主流となってまいりました。長年B5判に慣れ親しみ、ファイリングして頂いている方もおられると思いますが、できるだけ多くの情報をお伝えし、東洋研究所の活動をご理解頂くために、様々な読者に柔軟に対応した情報誌として、編集努力してまいります。今回の体裁変更にご理解頂き、今後の編集に御意見等いただければ幸いです。末永くご支援の程お願い申し上げます。

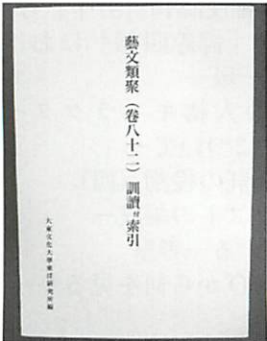
## 新刊案内



『昭和社會經濟史料集成』 第35巻 昭和研究会資料(5)  
兵頭 徹・大久保達正・永田元也 編集  
2008年8月31日発行/A5判 482頁/頒価¥7,000(税別)

《既刊》第1～30巻 海軍省資料(1)～(30)  
第31～34巻 昭和研究会資料(1)～(4)

☆ 第36巻 昭和研究会資料(6) 2009年8月刊行予定

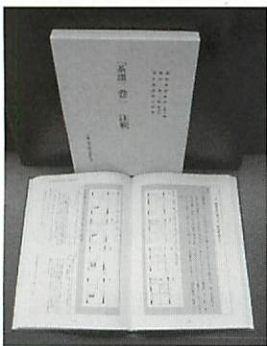


『藝文類聚』(巻八十二) 訓読付索引  
大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班 代表 福田俊昭  
2009年3月25日発行/B5判 143頁/頒価¥6,000(税別)

「草部下」=芙蓉 菱 蒲 萍 苔 菰 荻 蓍 茗 茅 蓬 艾 藤 菜蔬 葵 薺 葱  
蓼を収録

《既刊》巻一～巻十六, 巻八十, 巻八十一

☆ 巻八十三 2010年3月刊行予定



『茶譜』巻一 注釈  
藏中しのぶ・福田俊昭・相田満・安保博史・矢ヶ崎善太郎・渡辺信和共著  
2009年3月25日発行/B5判 230頁/頒価¥8,000(税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

☆ 巻二 2010年3月刊行予定

☆この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください

### 刊行図書取扱店

#### ■巖南堂書店

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-13-1  
TEL (03) 3262-7234

#### ■池上書店(大東文化大学板橋校舎内)

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1  
TEL (03) 3932-7567

#### ■汲古書院

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-5-4  
TEL (03) 3265-9764

#### ■進明堂(大東文化大学東松山校舎内)

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560  
TEL (0493) 34-4430

### 大東文化大学東洋研究所所報 No.51

2009年6月25日発行

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸2-19-10

TEL(03)5399-7351 FAX(03)5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www2.daito.ac.jp>

印刷 (株)東京技術協会